

第40回 土光杯

全日本青年弁論大会

土光杯全日本青年弁論大会
行政改革に大きな足跡を残した故土光敏夫臨時行政調査会長の「行革の実行には若い力が必要」との呼びかけに応じてフジサンケイグループが昭和60年に創設。テーマはその後、拡大され、日本の将来を担う若者の主張の場として毎年開催される。



記念撮影に応じる弁士と審査委員ら

テーマ「日本の目指すべき道」

第40回土光杯全日本青年弁論大会(フジサンケイグループ主催、カートエンターテイメント特別協賛、岡山商工会議所協力)が6日開かれ、若者たちが熱弁を振った。大会のテーマは「日本の目指すべき道」。論文審査を勝ち抜いた10人のうち、最優秀賞の土光杯、優秀賞の産経新聞社杯、フジテレビ杯、ニッポン放送杯、故土光敏夫氏の出身地、岡山県にちなんだ「特別賞岡山賞」に輝いた5人の弁論要旨を紹介する。大会の様子は、産経ニュースの公式YouTubeチャンネルで配信されている。



拓殖大学顧問 渡辺利夫氏

文章化で「知」の塊を積みあげよう

日本は、内外ともになく困難な課題に直面しております。私どもが、今回「日本の目指すべき道」という根源的な問いかけをあえて試みたのも、そういう危機意識のゆえです。この問いかけに対して、期待にたがわぬ多様なアンゲルからの優れたスピーチを聴くことができ、大変にうれしく思います。

このテーマを論じる場合、やはり日本を「外から観る視覚」が重要だと思われまます。プータンからの留学生、ケサン・ワンモさんの「幸福な国プータンから見た日本」が秀逸であったのは、やはりその視覚のゆえです。ワンモさんは、日本を日本たらしめているものが他ならぬ「日本語」であり、この日本語の用語法や文脈の中に日本と日本人というものの本質がある、そういうユニークな観点を提供してくれました。そして、日本語の正しい使い方に努めよ、と主張しています。はっとさせられるスピーチでもありました。

せっかくの機会でもありますので、私が「文章」というものに寄せている思いを1つ申し上げておきます。皆さんはこれまでの人生でさまざまな経験をしてくれました。しかし、これらの経験も、これを文章化しないと人生のささやかな経験としてほとんどが忘れ去られていきます。経験は文章化することによって初めて「経験知」となり、一つの確かなブロックとなります。別の経験を文章化するともう一つのブロックができていきます。いくつものブロックを積みあげていくと、簡単には崩れない経験知の「塊」ができます。この塊の大きさが、人間の成長したことの証しです。さまざまな経験を、本当に自分自身の人生にとってのかけがえないものとするには、文章化が不可欠です。

講評 審査委員長

